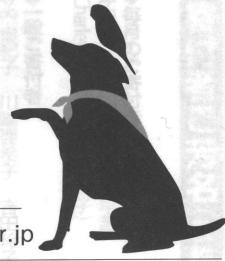




JAWS レポート 60

発行人：山下眞一郎
編集人：桜井邦広 山口千津子
編集協力：平山企画舎



発行 / 社団法人日本動物福祉協会 〒141-0031 東京都品川区西五反田8-1-8 中村屋ビル内 TEL(03)5740-8856 FAX(03)5496-0930 http://www.jaws.or.jp.jp

「どうぶつのはきもち」刊行

I あなたの家のどうぶつのはきもち

- ・動物たちの溜息
- ・汚い犬って言われたくないのに…
- ・悪いのは誰？
- ・暑い日は連れ歩かないで
- ・わたしたちは暑さに弱い
- ・お菓子を食べさせないでね
- ・「いつも一緒」がいいのかな？
- ・ネコの幸せはおうちの中
- ・犬は本当に飼い主から離れて走りたいの？
- ・小さいうちはママと一緒に

II そとで出会うどうぶつのはきもち

- ・ヨソの犬と仲良くなさない？
- ・お家のないネコはどんな気持ち？
- ・ネコ算ってなーに？

III 小さいどうぶつのはきもち

- ・お水を忘れないでね
- ・ウサギはとってもきれい好き
- ・僕たちの足はデリケート
- ・わたしたちは小さいの
- ・ミニブタの「ミニ」って？

IV やせいどうぶつのはきもち

- ・嫌われ者にしないでね
- ・動物園の動物
- ・動物たちの夢
- ・きみならどうする？

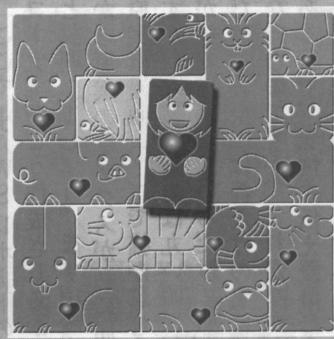
JAWS
ジュニアコーナーが
小冊子に！

どうぶつのはきもち

社団法人 日本動物福祉協会



どうぶつのはきもち



社団法人 日本動物福祉協会

① どうぶつたちのためいき
② 動物たちの溜息

③ どうぶつはいるよ
④ どうぶつのはきもち

どうぶつのはきもち ⑦

B5判 62頁（本文モノクロ）

価格:500円（税込）

発行所: 社団法人日本動物福祉協会
協力: 日本ヒルズ・コルゲート株式会社

ご注文は、事務局（TEL 03-5740-8856 FAX 03-5496-0930）へ
お問い合わせ頂くか、HP チャリティーショップ（http://www.jaws.or.jp/supportUs/goodsInfoList/data_1/page_1.html）よりお申込下さい。

この本ではそれらをまとめ、子どもと保護者が話し合いながら理解を深めていただけたらと、左ページにジュニアコーナーで連載していた漫画を掲載し、右ページではその解説をいたしました。漫画をきっかけに動物に興味を持つた子どもたちの疑問や更なる探求心にわかりやすくお答えいただく一助として、解説をご活用いただければと思います。さらに詳しく知りたい方のために、巻末には資料を添付しました。

そこで、「人と暮らす動物たちのこと」をもっとよく知つてほしい。私たちと同じように心も感情もある動物たちのきもちもわかつてほしい。」と、当協会ニュースレターのジュニアコーナーでいろいろな動物たちの気持ちを子どもたち向けにわかりやすく漫画で表現して連載してきました。この本ではそれらをまとめ、子どもと保護者が話し合いながら理解を深めていただけたらと、左ページにジュニアコーナーで連載していた漫画を掲載し、右ページではその解説をいたしました。漫画をきっかけに動物に興味を持つた子どもたちの疑問や更なる探求心にわかりやすくお答えいただく一助として、解説をご活用いただければと思います。さらに詳しく知りたい方のために、巻末には資料を添付しました。

60号主な内容

| | |
|------------------------|-----|
| 「どうぶつのはきもち」刊行 | 1~2 |
| 電話相談事例 | 3 |
| ホームページリニューアルのお知らせ | 3 |
| 捨て犬・捨て猫防止キャンペーン | 3 |
| 視察報告／知的ペットライフ講座 | 3 |
| ねこのめ日記（番外編②） | 3 |
| ホームページ | 4 |
| 動物愛護ふれあいフェスティバルご案内 | 4 |
| 動物愛護ふれあいフェスティバルご案内他 | 6 |
| 寄付者ご芳名／事務局から | 6 |
| ジョーズジュニアコーナー | 7 |
| 支部だより（阪神支部） | 5 |
| りぶ・うぶ・あにまるす2009国際会議の案内 | 5 |

今、日本ではいろいろな動物が人に幸せい暮らしている動物たちもいれば、飼い主の知識がないためにその動物の本來の習性に合っていない飼われ方をしていたり、あるいは動物が感じていることに飼い主が無関心であつたり気がつかないために、苦しんでいたり、健康を害したりする動物たちもあります。また、飼い主の周りへの配慮が足りないことで近隣住民に迷惑をかけ、苦情を生み、動物が悪者にされていることも少なからずあります。

そこで、「人と暮らす動物たちのこと」をもっとよく知つてほしい。私たちと同じように心も感情もある動物たちのきもちもわかつてほしい。」と、当協会ニュースレターのジュニアコーナーでいろいろな動物たちの気持ちを子どもたち向けにわかりやすく漫画で表現して連載してきました。

この本ではそれらをまとめ、子どもと保護者が話し合いながら理解を深めていただけたらと、左ページにジュニアコーナーで連載していた漫画を掲載し、右ページではその解説をいたしました。漫画をきっかけに動物に興味を持つた子どもたちの疑問や更なる探求心にわかりやすくお答えいただく一助として、解説をご活用いただければと思います。さらに詳しく知りたい方のために、巻末には資料を添付しました。

子どもの社会のみならず大人の社会でのいじめや児童や動物への虐待、先進国の中でも際立つて多いといわれる自杀等、「命」について、今この国が抱えている問題は極めて深刻であると言わざるを得ません。相手の気持ちになつて考えることが自然にできるようになれば、動物たちのみならず人への配慮も生まれ、いのちにやさしい社会につながついくのではないでしょうか。この本が、心豊かな子どもたちを育み、よりよい社会を築く一助となれば幸いです。

「どうぶつのきもち」発刊に寄せて… 執筆者の声

山口千津子
千葉千津子
会員会山平

Profile
国際基督教大学人文学科卒。ペット研究会「豆」を主宰し、行動研究会で動物関係委員会の委員も務める。

研究家。ペット研究会「豆」を主宰し、行動研究会で動物関係委員会の委員も務める。
国内外の情報を発信していける。また、大学や専門学校で教鞭をとらながら、

JAWS ジュニアコーナーのページの作成に長い間かかわさせていただいことは、私にとって極めて重要なことをございました。

私自身「動物育て」と「子育て」を同時にやってきた者として動物や自然界に対する根本的な意義とは早期、すなわち幼児時期及び児童期の体験や教育によつてかたちづくられるものであることを実感いたしております。最近のメディアを見ると子どもたちに間違った動物感を植え付けてしまうような番組などが多数目につきます。いわゆるペット業界のイベントやさらには動物園の催物などについても残念ながら同様の傾向が見られるのです。感動の物語とされるような児童文学の中でさえ一部誤った考え方を子どもたちに伝えてしまいそうなものが存在しています。まずは、正しい、正確な情報を子どもたちに知識の基盤として与えていくことは今日の最も重要な課題の一つであることは誰もが感じていることではないでしょうか。JAWS ジュニアコーナーはこのようない状況に対応するための一つの手段として実現した企画です。そこに対馬先生のすばらしい絵が加わり、日本初の児童用動物福祉啓発書が出来上がりました。

保護者や教育者の方々には、ぜひ、存分に活用していただき、次世代の「地球市民」の育成に役立てていただきたいと思います。



山崎恵子

(原案・文 担当)



対馬美香子

(PN みさわ桂介)
(漫画・文 担当)



山口千津子

(文 担当)

(社)日本動物福祉協会の山口千津子先生から JAWS レポートのジュニアコーナーに絵を描いて欲しいとのお話をしがたのは平成 10 年秋のことでした。それから 10 年、気がついたら連載は 20 回以上を数え、内容も身近な動物から野生動物まで多岐に渡っています。1 回だけの掲載じゃもつたないまままとめて本にして、もっと沢山の人を見てもらえるようにしようじゃないか」という声が上がったのが去年のこと。子供たちは漫画を見てもらい、大人たちとさらに詳しく知りたい子供たちのために、解説をつけようということになりました。約 1 年がかりでしたが、立派な本に仕上がって感無量です。

ここで JAWS レポートのジュニアコーナーがどう作成されるか、ちょっと説明しましょう。まず山崎恵子先生から原案のファクスが私に届きます。原案は漫画(?)で描かれているのですが、人物や動物は丸い頭に胴と手足が線で描かれているだけ。顔も目は点だけ、鼻や口は線だけの実にシンプルな絵なのですが、これがなかなか味のある絵で、表情や伝えたいことがすっと伝わってきます。それに必要最小限のセリフがついています。ファクスを受け取った私は、山崎先生の絵とセリフをじっくり吟味、咀嚼して、私なりの解釈や考えを加えた上で下原稿を作成します。それに山崎先生と山口先生の OK が出れば、本原稿を描いて完成です。山崎先生の原案ファクスを見つめているとじわじわと「言いたいこと」や「描きたいこと」が浮き上がってくるスルメのような絵なのです。

子供たちに動物にどう接すればいいかを教えるのは大切なことです。大人たち自身も自然体験が減っている現在、適切に教えられる大人がどれだけいるのでしょうか。私自身、子供のときこの本があれば、飼っていた犬や外で出会う猫たちをもつと大切にしてやれたのではないか、学校の飼育小屋にいたウサギたちに感じていた漠然とした疑問に答えが出せたのではないか、公園の鳩や動物園の動物のことをもつと考えられたのではないかと思つてなりません。

高校生の時、獣医師になるか、漫画家になるか、考古学者になるか、悩みに悩んで獣医師の道を選んだ私に、漫画の技と獣医師の知識をこんな形で生かせる機会を与えてくださった(社)日本動物福祉協会に感謝いたします。この本が、皆様に動物との付き合い方を考える一助となれば幸いです。

小さいときから、動物も私達と同じように心も感情もある生き物であることを知つてほしい、「いのち」への感性と共に感を育み思ひやりのある人間を育てたいと、原案を山崎恵子先生、漫画を対馬先生にお願いして、本誌 30 号にジュニアコーナーが誕生しました。動物を取り巻く現状や問題を踏まえて、動物のきもちや、人と動物が共に幸せに暮らす社会に向けてのルール等、正確な情報を漫画で分かりやすく掲載してまいりました。動物が身近にいない環境で育つた子どもたちの、動物に関するニュースソースはマスコミやネットということが多い昨今ですが、マスコミのブームを煽るような報道や一部の自称動物好きの方々を見ていて、動物のことについてやるのはなく、自分勝手な愛情を動物に押し付け、動物も周りの人も迷惑しているケースが多々あります。ぜひ、家庭で、地域・学校でこの「どうぶつのきもち」をご利用いただき、動物への責任や、人も動物も幸せに暮らせる社会について、みんなで話し合つていただけることを願つてやみません。

今、この冊子を全国の子どもたちの目にとまるように図書館に置いていただけたらと考へております。そこで、皆様のお手元に置いていただくと共に、お近くの図書館に「どうぶつのきもち」の購入希望を出していただけるようお願いできればと思つてゐるのでですが、何卒よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

末筆ですが、「どうぶつのきもち」の発刊に多大なご協力をいただきました日本ヒルズ・コレゲート株式会社様に心から御礼申し上げます。

Profile
(社)日本動物福祉協会獣医師・調査員。国や自治体の動物関係委員会の委員も務める。



Profile
東京都生まれ。
東京農工大学農学部卒。
獣医師。イラストレーター。